

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(141号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

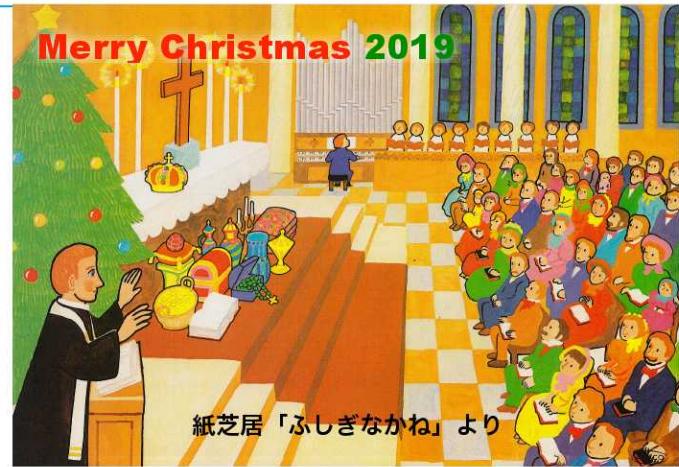
信仰: 人生の最大の危機管理は何か

● Merry Christmas!

- 日ごとに寒さが厳しくなって来ましたが、皆さんにはお変わりございませんか。台風で大きな被害を受けられ、その片付け等に追われている被災者の方々とボランティアの健康がこの寒さの中で守られるようにと祈っております。
- 11月に、神より大きな祝福をいただきました。2月末に、仙台の知人から介護施設に入居している尊敬する兄を訪ねてほしいと依頼され、毎週水曜日の午後に訪ね。お交わりをしてきた81歳のTさんが受洗をされました。ハレルヤ！（その経過は裏の「アドナイ・イルエ」欄をお読みください。）
- この恵みの経験の中で、神のことばの力と素晴らしさを改めて教えられ感謝しています。そして、若いときに聖書の神に出会っていることの大切さを思っています。
- 3.11大震災以来引き続いている想定外の自然災害を経験して、「危機管理」という言葉がさまざまな分野で声高に呼ばれています。大きな不安と閉塞感に現在の日本は覆われ、目の前の生活に精一杯で、人生にとっての最大の危機である「死」に関して備えるゆとりを失っています。
- どんな人間でも、一人として例外なく、確実に「死」を迎えます。しかし、日本人は「死」を忌むものとして避け、その避けることのできない「危機」に何の対処もしていない人が多いようです。
- 高齢化社会になり、「終活」ということばを沢山目にします。しかし、多くの人は「死」は遠い将来のことで、自分には関係ないものと考えています。「死」に直面したときには何の力ともならないことを頭では理解しても、豊かな人生を送るために富や財力を蓄えることが人生の目的となっています。そして、真の豊かな人生とは何かを真剣に求めるることはしなくなっています。
- 聖書は、その「死」の危機管理として、「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また『何の喜びもない。』と言う年月が近づく前に。」と教えています。
- 「神はいない。死んだら何かもなくなる」と言いながらも本心はすべての人間は死後のことを探しています。その自分の本心に耳を傾けるなら、死後だけでなく、残された老後がどのようなものであっても希望と感謝を持って過ごすことができるのです。
- 皆さんがよきクリスマスと新年を過ごされますように。

■ 先月の多くの恵みから

- ①お姉さんを天に送られた古川の斎藤皓子さんと一緒に働いておられる甥御さんが11/1に訪問くださり、沢山の献金を上げていただきました。
- ②11/4に日本キリスト教団美竹教会の倉持おりぶ先生より聖書紙芝居8部を献品いただきました。コンピュータに取り込んで、市内教会でロジェクターで用いていただけるように編集しています。
- ③11/6にFEBCより電話があり、2/6に私たちの群れを取材してくださることです。礼拝メッセージはFEBCの説教CDを通して毎回豊かな靈的祝福をいただき感謝しています。
- ④3日間、仙台国際センターで開催されたLBCの宣教70周年記念聖会で11/4にDean師の石巻での働きの証しができました。



- ⑤11/10に、横浜のシャローム福音教会より、今年も沢山の「みことば入り2020年カレンダーと手作りのカステラまで献品いただきました。市内教会にもお裾分けしました。
- ⑥11/21に、東広島市の宮越久雄（Gideonメンバー）さんより今年は自分で栽培された「サツマイモ」を送っていただきおいしくいただきました。また、多くの方々の愛のこもった献品と教会活動のための献金をいただき、教会活動が支えられました。感謝です。
- ⑦12/22のクリスマス礼拝は、今年も石巻山城町教会で合同礼拝と祝会に加えています。また12/29の礼拝はSBS元校長の森谷正志氏が奉仕くださることになり感謝です。
- ⑧12/13に博多ニューライフ教会の元 菊枝さんチーム4名が楽しい手芸の会メンバーのためにクリスマスツリー制作の奉仕をしてくださいます。継続した支援に感謝です。
- ⑨12/28に、コール・テモテ師が2箱の沢山の毛糸を「楽しい手芸の会」のために送ってくださいました。
- ⑩12/7に渡波のThe Rockで市民と一緒に「みんなのクリスマス2019」が開催されます。祝福をお祈りください。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

- ①今野かつ子さん/新井勝太・李恵子夫妻/Deiさんの治療のために精木紀男先生の奥様/阿部 晃さん/大橋久三郎さんの闘病のために②石巻の各教会の働きと地域より求道者が起こされるように。③大平英秀さん/佐藤 隆さんのために。④ 今年の自然災害による被災者のために。⑤ 石巻ミニストリーネットワークの働きのために。⑥ 来年の渡辺縦一絵画展の準備のために。

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応え)	

信仰を詠う

12月 愛していると告げたい!!

耳もとでどうしたのかときこえてる
ためらっているのは愛していないよと
言ひとつ無限を秘めしそのなかの
届くことばをいづこと模ぐる
己知ると涕くより他はないと言う
宣教走り受洗に還る



阿部 八重子

人にとって一番大切な「愛」それが欠ける情けない私。それでも神様は私に沿うて下さる。それを長年籠る孫に伝えたい。
一また山を動かすほどの完全な信仰を持っていても愛がないなら何の値打ちもありません—
コリント1-13-12

2019/10月末～2019/11月末までの教会活動の様子と地区教会活動との関わり



12/7 「みんなのクリスマス2019」

月1回の聖書を読む会

Friendshipキルト

美竹教会より紙芝居を貢品

横浜シャーロムCより2020年賀



11/17 千葉真一さんご夫妻礼拝参加



foxfaceをいただく



11/19 「ほっとTime」でオペラを



12/1かわいい礼拝出席者が仙台から



11/17画家渡辺一ご夫妻來訪

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

Tさんの洗礼

石巻祈りの家 代表 阿部 一

ハレルヤ！ 妹さんのNさんの祈りに応えて、介護施設に入居されているお兄さんのTさんが11/15に洗礼を受ける恵みに与った。

今年2/25に仙台にお住まいのNさんから、介護施設に入所している尊敬する兄のTさんを訪問してほしいという電話が入った。戦後の大変な時期に、工業高校を卒業するとすぐに石巻の会社に就職して、家計と弟やNさんの学費を援助するために働き続けてくれた兄だという。さらに、高校時代に、教会に通っていたとのこと。

早速、翌日に、主の備えてくださったご用と祈りながらその介護施設を訪ねた。私の家から、車で30分ほどかかる市の北部の小高い丘の上にその施設はあった。部屋に入り、挨拶すると同時に、Tさんは「阿部さん」と呼んでくれた。あの東日本大震災の折に自宅が津波で破壊され、小学校の避難所で生活をしておられたTさんを、Nさんの要請で必要な支援物資を持って2回ほど訪ねたことを覚えてくださったのである。その日以来、毎週水曜日の午後に訪問してきた。

3回脳梗塞で右足が不自由となり、長男ご夫妻が共に働いているために、認知症状も出ているというので自宅ではお世話できなくなり、介護施設で過ごすことになったという。幸いなことに、Tさんは言語機能が守られていて、ことばによつてコミュニケーションが可能である。

高校時代に、教会に通ったことがあるというから、この贊美は知っているだろうと思って用意した「主我を愛す」を歌い始めたら、Tさんその贊美をほぼ完全に覚えておられて一緒に贊美したが、この贊美歌がその後の交わりのオープニングの歌となった。一時、誤嚥で2週間ほど入院されたこともあるので、流動性のある大好きなコーヒー、ヨーグルト、プリンなどをお持ちしている。私も長期入院の経験があるが、そのときの楽しみは、やはり食べ物であることを経験しているからです。

毎回、最初に祈つてから、贊美歌を歌い、短い聖書のお話をし、おしゃべりと大好きなプレスリーの“Love me tender”などをiPhoneで一緒に楽しむ。若いときは、バンドでギターを弾き職場でのフォークダンスのために演奏もしたというTさんはプレスリーが大好き。牛込キリスト教会の佐藤 順牧師が作成された「エルヴィス・プレスリーの真実」のトラクトをいただいて、彼が噂とは違つて素晴らしいクリスチャンであったことを知つ

てとても喜ばれた。さらに、T兄の若い頃の経験や奥様との出会いと結婚、職場での思い出などをたくさん伺つた。年齢が私より2歳上で同時代であるので共感することが多い。

その後、私たちの教員のAさんとご主人がTさんの同僚であったことがわかり、お二人でTさんを訪問してくださった。それに続いてAさんがTさんの入所をフォークダンスと一緒に楽しんだ当時のメンバーに伝えられ、その方々もTさんを訪ねてくださり。彼にとってはとても嬉しい再会のようだった。

交わりの中で、イエスさまのお話をすると彼が涙ぐむことが多くなりなつた。だが、「罪」と「あのイエス様が十字架になぜかからねばならなかつた」かは、どうしても理解できないという。日本人には、聖書のいう「罪」を納得することはとても難しい。だから、焦らずに信仰の基本の三要素「イエス様が自分の罪のために贖いとなつて十字架にかかるつたこと」、墓に葬られたこと。3日目に甦られたこと」、そして、今、父なる神様の右に座し、自分のために取りなしをしてくださつていることを本心から心で理解できるようにと、神様の介入を期待して祈り、交わりを続けてきた。

10月半ば頃、部屋に伺うと突然、「阿部さん 昨晩、天国に行った夢を見たんだ。イエス様が温かく私を迎へ、抱きかかえてくれたんだ。」とうれしそうに語ってくれた。「Tさん、天国行きの切符ほしい？」と聞くと、深く頷かれた。

この話を、仙台の妹のNさんにお話をした。尊敬するお兄さんであるTさんを神様が救つてくださることを切に願い祈り続けてきたNさんは、息子さんと娘さん、そしてご自分も所属する東京の葦のかごキリスト教会のS師に相談された。その結果、S師が時間を調整してNさんとともに、11/15にTさんと会うために来てくださることになったのである。

当日午後に、介護施設で私がいつものように「主我を愛す」を贊美し、今回はマタイの福音書13/44-45「畑に隠された宝のたとえと真珠商人のたとえ」から、人がそれを手に入れるためにはどんな犠牲を払つても惜しくないもの、私たちにとってはその宝とは、神の救いに与り、Tさんが夢に見た天国へ入るための約束手形をもらうことではないかとお話をした。

その後で、S師がTさんが分からぬと言つていた「罪」と「主イエスの十字架」の関係を丁寧に説明してくださり、本人の確認を得て、信仰告白をS師の導きの中で行つた。ハレルヤ！

引き続いて、Tさんの個室に戻り、洗礼の意味を説明した後に私たちの祈りの中で、S師は彼に洗礼を授けてくださつた。神はこのような状況の中でも救われる魂を求めておられることを体験できて神の御名を崇めた。感謝！ 主がTさんの信仰を真っ直ぐに育ててくださるようにと祈る。

